



## オガサワラオオコウモリの今・．．．

夜の餌場は大変にぎやか。オオコウモリ同士が近寄ってはキーキー、キキキ、この声を聞いてさらに他のコウモリが集まってくる。まるで、うるさいところには餌がある！と考えているかのようです。結構グルメで、熟したおいしいくだものが大好きです。たくさん餌のある場所では10〜20頭も集まることがあり、2〜3時間ほど滞在しては、次の餌を求めて飛び立ちます。

よく間違われるのですが、オガサワラオオコウモリは暗闇を飛ぶとき、超音波を出して飛ぶ小型のコウモリ類とは異なり、目で見て飛んでいます。この暗闇の中でもよく見える目と、ヒクヒク動く臭いに敏感な鼻を頼りに餌を探します。ちなみに耳はとても小さく、ピクピクと、とてもよく動きますが、音を聞く能力についてはまだよく分かっていません。

オオコウモリ類の主な餌は果実なので、困ったことに昔から果物農園は彼らの餌場となってきました。農家にとつて、大事に育てた収穫間近の果実が食べられてしまうのは大きな問題です。現在、この農業被害の問題は小笠原だけでなく、オオコウモリ類が何百万頭も生息するオーストラリアなどでも深刻です。しかしオオコウモリの立場から見れば、年々開発によって住む場所や餌場が狭くなり、人間の生活エリアにも出沒せざるを得ない訳です。そのため人間と野生動物の生活域が重なりと様々な衝突が出てきますが、共存するためには、人間の側のほうを、よく状況を調べて知恵を絞らなければなりません。残念ながら、小笠原を含めたオオコウモリが生息する各地ではまだ有効な農業対策が考えられていません。



小笠原の歩道に埋まるオガサワラオオコウモリのタイル。どこにあるか探してみよう！

# MOUNTAIN



1970~71年頃の母島沖村での写真(提供 木村ジョソク氏) タマナ(テリハボク)に数十頭のオオコウモリがぶら下がり、昼間でも飛び回っていたという

ところでオガサワラオオコウモリはどのくらいの数があるのでしょうか？

父島では戦前にはたくさんいましたが、その後絶滅が心配されるほど減ってしまった時期もあったようです。しかし2年前の調査では父島に一〇〇頭以上を確認でき、安定した数が生息

していることが分かりました。母島では返還前後の時期には一〇〇頭以上いたことが分かっています

ますが、現在はほとんど見られません。また母島からさらに南に数百km以上も離れた火山列島にもオオコウモリは生息しています。北硫黄島では今年

我々の調査で数十頭が確認され、南硫黄島にも一〇〇頭近くがあると報告されています。現時点では、小笠原諸島全体で、つまり世界中で、生息が確認されているのは合計三〇〇頭余りという計算になります。なお硫黄島列島と小笠原列島は、オオコウモリが飛ぶにはとても距離がありるので、それぞれの列島のオ

オオコウモリは遺伝的に異なる、少し違う種類という可能性もあります。

小笠原諸島に人間が入植したのは一八三〇年ですが、オガサワラオオコウモリは古くは一六七〇年ころの文献にも登場し、人間よりずっと昔からの住人です。父島では数が増えてきて身近に観られる動物になってきましたが、世界で三〇〇頭ほどしかないのは事実です。生息には不明な点はまだたくさんありますが、少しずつ研究し続けることで、共にこの小笠原で生きていくための方法を探しながら、次世代にもこの動物を残したいと考えています。でもこれはオガサワラオオコウモリだけでなく、全ての動植物にも当てはまることですね。

ま